希望新聞

東日本大震災希望新聞取材班
〒100－8051（住所不要）毎日新聞生活報道部
ファクス03・3212・5177
メールkibou@mainichi.co.jp

被災した皆さんに役立つ情報や応援メッセージをお待ちしています。「ここにいます」「さがしています」「がんばろう」への投稿は、氏名、住所、年齢、職業、電話番号（あればメールアドレスも）を明記してください。

ここにいます

＜宮城県＞
★小松昭義さん（72）＝女川町鷲神浜（同町旭が丘の親類宅）　妻よし子と帰省中の娘が家ごと500メートルも流され、柱にしがみついて水の中で15時間耐えた末に、奇跡的に救出されました。「眠ったら死ぬよ」と互いに励ましあったそうです。町内に住む妻の友人、鈴木たけ子さんとまだ連絡がついていません。震災の当日にどこか町外にいて無事でいることを願っています。

小松昭義さん

★高橋邦子さん（69）＝石巻市雄勝町雄勝味噌作（林業振興センター）　横浜市戸塚区の川上団地に住む叔父の内海洋治さんへ。いろいろな所が被害を受けたようですが、雄勝も大変な被害でした。自宅は全部流されてしまい、親類もたくさん亡くなりました。「一緒に暮らそう」と誘ってくれる知人が数人いますが、しばらくは避難所で過ごそうと思っています。

★渡辺勝子さん（69）＝石巻市南浜町（石巻中体育館）　湊立石に住む友人の大山喜久子さん（55）へ。津波で家が流され電話帳を失ったので、連絡ができません。着の身着のままで家を飛び出してきましたが、元気です。

さがしています

＜宮城県＞
☆名取市閖上の渡辺敏正さん（70代）へ　友人で仙台市青葉区の荒井逞二（きょうじ）さん（72）が自宅（022・279・4132）で連絡を待っています。2人は郵便局に勤めていました。「東北地方の同期が心配しています」
☆山元町の大槻満さん（70代）へ　朝鮮半島にあった旧制新義州公立中学の同窓生で、東京都練馬区の岸恒雄さん（85）が自宅（03・3990・6983）へ連絡を求めています。
＜福島県＞
☆南相馬市原町区仲町の五十嵐靖子さん（60代くらい）へ　秋田県大仙市の高橋まゆみさん（26）が心配しています。2人は十数年文通していました。「お会いしたことはありませんが、私の投稿が毎日新聞『みんなの広場』に掲載されるたびに手紙をくださいました。震災後は手紙を出しても返事がありません。希望新聞のファクス（03・3212・5177）に連絡ください」
☆いわき市四倉町の蛭田ツギさん（80代）へ　東京都東村山市の逆瀬川六女さん（80）が案じています。ともに夫が旧満州の満鉄（南満州鉄道）の同僚で、同じ時期に日本に引き揚げたそうです。「蛭田さんの亡きご主人は20年前、主人の命日に桃を送ってくれました。希望新聞のファクス（03・3212・5177）に連絡先をお知らせください」
☆郡山市の佐藤（旧姓中村）のりこ（表記不明）さん（54）へ　兵庫県の私立芦屋女子高の友人で、大阪府茨木市の根岸（旧姓武蔵）薫子さん（54）が心配しています。「30年以上会っていませんが、携帯（090・3866・9502）に連絡ください」
☆南相馬市小高区川房西畑の中里成子さん（60代）へ　東京都町田市の黒瀬則子さん（72）が自宅（042・735・6429）で電話を待っています。2人は約30年前、東京都世田谷区の大蔵団地に住んでいました。黒瀬さんの長女と中里さんの息子は、世田谷区立砧小学校に通っていました。
☆いわき市岩間町岩下、佐藤久安さん（84）夫妻へ　大阪府豊中市の山口英一さん（84）が心配しています。会社の取引先でしたが、夫婦同士定年後も旅行に行った50年来の友人です。「どなたか消息を希望新聞のファクス（03・3212・5177）にお知らせください」

みつかりました

▽8日掲載の岩手県陸前高田市の細谷喜一さんは、やはり市内の地竹沢公民館にいました。菩提（ぼだい）寺の住職の娘さんが希望新聞を見て知らせ、元同僚の茨城県牛久市の西村庚二さんに電話しました。「家は浸水したけれど家族は無事とのことで安心しました」
▽8日に掲載した福島県いわき市の佐々木俊一さんと弟の俊寿さんは希望新聞を見て、いとこの埼玉県飯能市の井上俊之さんに9日に電話しました。俊一さんは津波の被害で市内の高校に避難中。俊寿さんは知人宅から自宅に戻り、2家族とも全員無事でした。

がんばろう

●仙台市生まれのピアニスト、仲道郁代さん
赤ちゃんの時だけですが、生まれた所なので、仙台と東北には特別な思いがあります。15年前から七ケ浜国際村（宮城県）のレジデントアーティストになっていて、毎年コンサートを行い、今年の8月にも予定されています。幸いホールもピアノも無事で今、避難所になっています。10月には岩手県宮古市でもコンサートが予定されているのですが、ここはいまだに連絡がつかず、毎日心配でたまりません。
今いろいろなコンサート会場で義援金を集めることしかできませんが、私は被災地の方に衣食住の次に音楽を届けられたらと思っています。大きな悲しみの前に、私がどんなに言葉をつくしても何も伝えられませんが、音楽を聴いて少しでも希望を持つ気持ちになっていただきたい。
阪神大震災の後、神戸では音楽を求める方がとても多くなったように思います。音楽の力を信じて、自分ができる音楽を通して、被災された皆様と一緒にいたいと思っています。

サポート情報
～東日本大震災～
9日現在

余震後の停電 ほぼ復旧

7日夜の余震により、宮城県栗原市、登米市や岩手県一関市など東北地方の広範囲で停電が続いていたが、9日夜までにほぼ復旧した。
一方、津波被害が大きかった沿岸部などでは、復旧の見通しが立っていない地域が多い。東北電力管内で9日午後8時現在、岩手県内2万9959戸▽宮城県内9万5993五戸▽福島県内3万5839戸の計16万1371戸が停電している。

給水

7日夜の余震で再び断水地域が広がった。10日予定されている主な給水場所や問い合わせ窓口は次の通り。変更の場合もある。ポリタンクなどの容器持参が必要。（C＝センター）
＜岩手県＞◆一関市＝関が丘中央公園▽一関二高▽南小▽中田中央公園▽一関二高▽赤荻小▽笹谷分館▽一関高専▽総合体育館▽一関博物館▽JR真滝駅▽弥栄小▽永井公民館▽涌津同▽油島同▽花泉同▽老松同▽日形同▽金沢同▽花泉支所▽川崎公民館など23カ所☎0191・21・2111◆大船渡市☎0192・27・3111◆陸前高田市☎0192・59・2111◆釜石市☎0193・23・5881◆大槌町☎0800・1851・4911◆宮古市☎0193・63・1115
＜宮城県＞◆仙台市＝南光台ふれあい広場▽南光台南1の12▽南光台3の14ほか給水車巡回☎022・748・1111◆気仙沼市☎0226・23・9900◆石巻市・東松島市（石巻地方広域水道）☎0225・95・6711◆塩釜市＝一小▽二小▽三小▽玉川小▽月見ケ丘小▽杉の入小▽一中▽二中▽三中▽市役所など15カ所☎022・364・1411◆登米市＝迫▽登米▽東和▽中田▽豊里▽米山▽石越▽南方の各総合支所◆栗原市☎0228・42・1130◆大崎市＝田尻総合支所▽田尻地区公民館▽大貫地区公民館など9カ所☎0229・23・2111◆柴田町＝船岡小▽西住児童館▽船岡生涯学習C▽槻木生涯学習C▽農村環境改善C▽船迫生涯学習C◆大郷町＝各公民館◆多賀城市＝市役所▽上水道部庁舎前ほか給水車巡回☎022・368・1141◆白石市＝給水車巡回☎0224・22・1331◆女川町☎0225・54・3131◆亘理町☎0223・34・1111◆山元町☎0223・37・1120
＜福島県＞◆いわき市☎0246・22・9310
＜茨城県＞◆神栖市☎0299・90・1164

医療

10日に診療を予定している医療機関。余震による停電の影響などで、変更の可能性がある。
＜岩手県＞県立の大船渡、久慈、釜石は救急のみ▽県立宮古は9～21時▽せいてつ記念、国立釜石、三陸は急患のみ
＜宮城県＞◆仙台市急患センター（若林区）は9時45分～12時、13時15分～17時。内科、小児科、外科はさらに18～23時▽仙台医療センター（宮城野区）は救急対応◆仙台市外　石巻赤十字は重症の救急のみ▽塩釜市立は救急のみ▽県立循環器・呼吸器病センターは救急と外来再診（投薬）▽栗原中央は中等症の急患▽気仙沼市立本吉、赤石、栗原市立若柳、同市立栗駒、真壁は急患のみ▽名取市立休日夜間急患センターは内科、外科、小児科が9～12時、13時半～16時半。内科はさらに18時～翌朝6時半（23時半～24時を除く）▽石巻港湾は11日に外来診療開始
＜福島県＞問い合わせは県地域医療課☎024・521・7221
＜茨城県＞救急医療情報システムで病院案内☎029・241・4199

入浴

自衛隊が設置している仮設風呂と入浴できる時間は以下の通り。タオルは持参する。
＜岩手県＞津軽石小（13～22時）▽山田高（10～21時）▽山田南小（シャワーのみ、13～21時）▽シープラザ釜石（12～21時）▽盛小（10～21時）▽米崎小（13～21時）▽大槌町ふれあい公園（12～21時）
＜宮城県＞多賀城駅前（10時～19時半）▽気仙沼小（女性8時～13時半、男性14～20時）▽本吉総合体育館（女性9～12、15～18時、男性12～14、18～20時）▽南三陸町ベイサイドアリーナ（13～20時）▽石巻市消防本部グラウンド（10時～19時半）▽万石浦中（12時～19時半）▽小竹コミュニティーセンター（シャワーのみ、12時～14時半）▽荻浜中（シャワーのみ、12時～15時半）▽鹿妻小（シャワーのみ、15時～18時半）▽青葉中（シャワーのみ、14時～18時半）▽サン・ファン・バウティスタ・パーク駐車場（シャワーのみ、15時～18時半）▽石巻市中央2市営駐車場（12時半～16時半）▽大塩市民センター（シャワーのみ、14時～20時半）▽小野市民センター（シャワーのみ、14時～20時半）▽山下小（13～23時）▽亘理町中央児童センター（13～21時）▽逢隈中（13～21時）
＜福島県＞向陽中（12～21時）▽あづま総合運動公園（女性13～17時、男性17時半～21時）▽田村市総合体育館（17～22時）▽いわき中央台公民館（12～21時）▽ビッグパレットふくしま（乳幼児14時半～15時、一般15～21時）

朝食をとる志田正行さん（66）＝中央右、妻節子さん（63）＝同左＝ら。車中泊を続ける志田さんたちは干していた洗濯物にはゴミ袋をかぶせ、ブルーシートや傘を広げて雨宿り場所を作った＝岩手県大槌町で9日午前7時15分、小川昌宏撮影

商業施設

＜みやぎ生協＞10日に営業する44店舗のうち、35店は10～21時に店内販売。本震で被害を受けた大代▽黒松▽白石▽榴岡の4店と、7日夜の余震の影響を受けた多賀城▽六丁の目▽新田東▽岩切▽高砂の5店は10時から店頭販売し、商品がなくなり次第閉店する。復旧次第では店内販売が可能になることも。
＜ヤマザワ＞宮城県内の19店舗中、本震後に休業している長町南▽荒井▽中田▽塩釜中の島▽汐見台の5店舗に加え、7日夜の余震で南光台（仙台市泉区）も休業。再開まで1週間程度、要する見込みという。
＜イオン＞宮城県名取市のイオンモール名取エアリ西側駐車場で10日、「ゆりあげ港朝市」がある。日曜朝の恒例イベントで、震災後は2回目。生鮮食料品販売、もちつきなどが行われるほか、情報交換の場として「再会広場」が設けられる。6～12時。
＜イトーヨーカドー＞いわき市の平店が11日から全館で営業を再開（現在は1、2階のみ）。閉店も1時間延長し10～20時となる。

ボランティア

県外から被災地などへのボランティア受け入れ状況は次の通り。明記のない限り、作業はがれきの撤去や泥かき。移動手段、現地での食事、宿泊などは原則として自分で確保する。くぎを踏むなどのけがが増えており、安全靴か中敷きなどで補強した長靴の用意を。
＜宮城県＞◆石巻市☎0225・23・6011～2、6014～5（9～16時）　ボランティアセンターのある石巻専修大まで仙台駅から無料バスがあり、18日まで運行予定。先着順で平日80人、土日120人◆塩釜市☎080・1679・8989　県外ボランティアは10日まで◆多賀城市☎080・5949・7501（9～12時）◆岩沼市☎080・5949・7541（13～16時）◆亘理町☎080・5944・9771・9（8時半～18時）◆南三陸町☎080・2055・1066、0878（9～16時）◆山元町☎080・5949・7720、7724（8～16時）＝専門職のみ
＜福島県＞◆南相馬市☎0244・24・1877◆相馬市☎0244・36・7827◆矢吹町☎0248・44・5825
＜群馬県＞◆片品むらんてぃあ☎0278・58・3487　福島県の被災者を受け入れる片品村での民間ボランティア。高齢者が多く、カウンセリングや傾聴ボランティアなど。近隣に住み自費で対応できる人

その他

■労働相談
＜岩手労働局＞被災した事業所の雇用維持や雇用保険の支給、労災保険給付などに関する特別労働相談に応じている。9～17時。4月中は土・日曜と祝日も対応。☎0120・980・783または企画室☎019・604・3002。
11、12日は釜石市内20カ所の避難所などで出張労働相談を行う。それぞれ2時間ずつ。場所、時間などの確認は労働局企画室へ。
＜宮城労働局＞各種助成金や労災保険などについての相談電話を受け付けている。助成金、雇用保険給付は職業安定課☎022・299・8061▽労働条件や安全衛生、労災保険の給付は監督課☎022・299・8838。平日は8時45分～17時だが、10日は10時から。
＜福島労働局＞被災事業主や働いている人から雇用や賃金などの相談を受けるホットラインを開設。☎0120・536・088（9～16時）。また11～15日、勤務中に被災した労働者を対象に、労災保険給付についての個別相談会を福島市と二本松市の避難所20カ所で実施。労災補償課☎024・536・4605。

■法律相談
＜岩手弁護士会＞10日、陸前高田市の3カ所で無料相談会を開く。住宅や車の保険、ローンの支払いなどの相談に応じる。一中（2階1年A組）▽米崎小（1階1年A組）▽広田小（2階5、6年サブルーム）で、いずれも10～16時（当日先着順）。
＜仙台弁護士会＞10日、女川町の2カ所で出張無料相談会を開く。総合運動場体育館と勤労青少年センターで、ともに11～15時。

■郵便
郵便局会社は沿岸部の被災地で、車両型の移動郵便局15台を配置している。印鑑、通帳をなくした人も20万円を限度に貯金を引き出せる。転居届を受け付けたり、希望者に通常はがきを無償で配っている。10、11日の予定は次の通り（いずれも11～14時）。
＜岩手県＞陸前高田市学校給食センター▽大槌高▽日向アパート集会所▽旧釜石一中避難所（以上、両日）▽山田町立大沢小▽蛸ノ浦漁村厚生施設（以上、10日）▽山田町立大浦小▽大船渡中（以上、11日）
＜宮城県＞石巻市立湊小▽南三陸町総合体育館ベイサイドアリーナ（以上、両日）▽石巻市立荻浜小▽女川町立女川一小▽平成の森▽七ケ浜国際村▽塩釜ガス体育館▽名取市立高舘小▽山元町中央公民館（以上、10日）▽石巻市立東浜小▽雄勝森林公園▽志津川自然の家▽七ケ浜中央公民館▽多賀城市文化センター▽名取一中▽山元町役場坂元支所（以上、11日）
＊
郵便事業会社は、福島県の避難指示区域、屋内退避指示区域に住んでいた被災者に、16日までに避難先届や転居届を出すよう呼びかけている。届け出がない世帯あてに17日以降に届いた郵便物は、差出人に返還される。

■主な問い合わせ先■

●行方不明者相談ダイヤル
岩手県警　0120・801・471
宮城県警　022・221・2000
福島県警　0120・510・186
●ライフラインなど
NTT災害用伝言ダイヤル　171
東北電力　0120・175・366
●医療
＜放射線被ばく相談＞
▽文部科学省健康相談ホットライン　0120・755・199（9～21時）
▽放射線医学総合研究所相談窓口　090・5582・3521▽090・4836・9386▽080・2078・3308など計6回線で対応（9～21時）
＜人工透析＞
▽岩手県　人工透析相談窓口　019・629・5471
▽宮城県　仙台社会保険病院　022・275・3111（かかりつけ医が対応していない場合のみ）
▽福島県　県地域医療課窓口　024・521・7221
＜その他＞
日本医師会　03・3946・2121
てんかん支援ホットライン　054・245・5446
アレルギー支援ネットワーク　052・485・5208
●生活支援
あしなが育英会　0120・77・8565（遺児らに特別奨学一時金を支給）
心の相談緊急電話　0120・111・916（13～22時。日本臨床心理士会など）
多文化共生マネージャー全国協議会
▽英語　080・3503・9306
（他に中国語、スペイン語などの窓口あり）
震災関連の悪質商法110番　0120・214・888（10～16時。国民生活センター。岩手、宮城、福島3県対象）
＜視聴覚障害者向け＞
「全日本ろうあ連盟」や「全国盲ろう者協会」がウェブサイトで支援情報などを提供。
●省庁
行政相談（東北管区行政評価局）0120・511・556
（茨城行政評価事務所）0120・188・571
金融相談（東北財務局）　022・721・7078
中小企業電話相談（経産省）　0570・064・350
農林水産業の被害相談（農水省）0120・355・567
●金融機関など
岩手銀行　0120・064・626
七十七銀行　0120・78・1177
東邦銀行　0120・104・157
ゆうちょ銀行　0120・108・420
東北労働金庫　022・723・1111
住宅金融支援機構　0120・086・353
日本政策金融公庫　0120・220・353
そんがいほけん相談室（日本損保協会）　0120・107・808または03・3255・1306
●交通機関
JR東日本　050・2016・1600
JAL（国内線）　0570・025・071
ANA（国内線）　0570・029・222

HPで避難者名簿

岩手、宮城、福島の3県はホームページ（HP）で、各県内の避難者名簿を公表している。他県に避難した住民も一部掲載している。宮城県は「避難者情報ダイヤル」（☎022・211・3430）で問い合わせに対応。福島県も「避難所入所者情報センター」（☎024・521・5543～4）で対応している。
×
宮城、福島の両県警は相談が寄せられた行方不明者の一覧をHPで掲載中。岩手県警を含む3県警は、見つかった遺体に関する情報もHPで掲載している。

災害FM局

	MHz
＜岩手県＞	
ラヂオもりおか（盛岡市）	76.9
奥州エフエム（奥州市）	77.8
FM One（花巻市）	78.7
カシオペアFM（二戸市）	77.9
みやこさいがいエフエム（宮古市）	77.4
おおふなとさいがいエフエム（大船渡市、陸前高田市）	78.5、80.5
かまいしさいがいエフエム（釜石市）	86.0
＜宮城県＞	
ラジオ3（仙台市青葉区）	76.2
fmいずみ（同泉区）	79.7
エフエムたいはく（同太白区）	78.9
ほほえみ（岩沼市）	77.9
BAY WAVE（塩釜市）	78.1
ラジオ石巻（石巻市）	76.4
H@！FMはっとエフエム（登米市）	76.7
けせんぬまさいがいエフエム（気仙沼市）	77.5
おおさきさいがいエフエム（大崎市）	79.4
なとりさいがいエフエム（名取市）	80.1
やまもとさいがいエフエム（山元町）	80.7
わたりさいがいエフエム（亘理町）	79.2
＜福島県＞	
FMポコ（福島市）	76.2
SEA WAVE FMいわき（いわき市）	76.2、77.5
FMきたかた（喜多方市）	78.2
FM愛's（会津若松市）	76.2
エフエムモットコム（本宮市）	77.7
郡山コミュニティ放送（郡山市）	79.1
そうまさいがいエフエム（相馬市）	76.6
すかがわさいがいエフエム（須賀川市）	80.7
＜茨城県＞	
FMぱるるん（水戸市）	76.2
FMかしま（鹿嶋市）	76.7
ラヂオつくば（つくば市）	84.2
FMひたち（日立市）	82.2

希望新聞

遠くの被災地より

ささやかでも 仕事が支えに

五島の福江大火を経験 ノンフィクション作家 今井美沙子さん(64)

東日本大震災の被災地映像が阪神大震災、そして自宅を失った福江大火(1962年)の記憶と重なり、涙が止まりませんでした。

故郷の長崎県五島市の市街地を一晩で焼き尽くした福江大火で自宅は焼け、2年以上、家族5人で6畳1間の仮設住宅で暮らしました。形あるものは灰になるのだと、16歳にして身に染みました。何より悲しかったのは家を失うことで、自分や家族の歴史が消えてしまうと感じたことです。被災地の方々も、そのような思いでいることでしょう。

支えになったのは、母が仮設住宅に花壇を造ったり、笑顔で明るく振る舞っていたこと。後になって「母ちゃんが泣いてたら、あんたたちが不安になるやろ」と母もつらかった思いを打ち明けてくれました。

報道を見ていて、東北の方々は古来、我慢強くたくましいDNAを受け継いでいると感じます。自分よりも大変な人を思いやる姿勢に頭が下がります。

長年「仕事」をテーマに取材・執筆し、阪神大震災で被災された方々のその後を追った本「阪神大震災で学んだこと」を出版しました。そこで感じたのは、ささやかでも「仕事をしている」と感じることが、精神的に大きな意味があるということ。避難所でごみを拾ったり、配膳を手伝うといったことです。

生きていく力は、神様仏様から人間に与えられたものだと思います。人間はすばらしい力を持っています。被災地の皆さん、生き抜いてください。

【聞き手・手塚さや香】

ミニニュース

■パン店が被災者雇用 無添加パンの店「リスドォル・ミツ」(東京都杉並区西荻南3)を経営するミツ(広瀬満雄社長)は被災者5人を半年～1年間、従業員として受け入れる。月給20万～30万円で、住居もあっせん。年齢、性別、職歴などは問わない。広瀬さんは「働いて収入を得る通常の生活を取り戻してほしい。アルバイトを含め従業員10人の店。できることは限られるが、多くの企業で機運が高まれば」と話し、「パンづくりの技術を学んで古里に戻り、開業してくれてもいい」と期待する。☎090・6158・7353広瀬さん。

■操業困難企業にスペース無償貸し出し 京都府文化学研都市推進室などは東日本大震災で事業継続が困難となった企業向けに、関西学研都市の一角にある「けいはんなプラザ」(同府精華町光台)内のラボ棟の賃貸スペース(約40平方㍍、10室程度)を最大1年間、無償で貸し出すと発表した。11日から申し込みを受け付ける。

貸与の対象は、被災で操業困難となった商業店舗以外の企業で、業種、所在地は問わない。従業員が常駐して企業活動が行われることが貸与の条件で、光熱費やデスク、椅子、パソコンなどの備品は入居者負担。同推進室(☎075・414・5194)で受け付け、現地見学後に入居手続きを進める。

■あす追悼法要 浄土真宗本願寺派の築地本願寺(東京都中央区築地3)は11日、発生から1カ月を迎える東日本大震災の犠牲者の追悼法要を境内の仮本堂で営む。地震発生時刻の午後2時46分から約1時間。参加無料。庶務部☎03・3541・1131。

Q&A

Q 水を節約して使うには?

A 台所の洗い水をトイレに再利用

飲料水や生活用水など、水が安定的に確保できない避難所では、使い方の工夫が求められます。

日本登山医学会に所属する夏井正明医師(旅行医学)によると、飲み水はミネラルウオーターか水道水にすべきです。井戸水は地割れなどで水源が汚染されている可能性があり、飲むには煮沸が必要です。

泥などで濁った水でも、布や和紙、コーヒーフィルターでろ過すれば、手洗い用に使えます。ペットボトルに入れ、キャップにキリなどで穴を開ければ、シャワーのようになり無駄遣いも避けられます。ただ、口に直接触れる食器などへの利用は避けましょう。

また、生活研究家の阿部絢子さんによると、雨水をためて活性炭を入れ、コーヒーフィルターなどでろ過した後、煮沸すれば飲用になります。今回は雨水の放射能汚染が心配ですので、飲料水に使う場合は十分に注意してください。米のとぎ汁や野菜を洗った水は、食器洗いなどにも使い、最後はトイレ用などに使うと無駄がありません。

【今井美津子】

「普通の学校生活送らせたい」

20人寝泊まり 避難先に臨時職員室

東日本大震災で、岩手県内の学校で最大の被害を受けたとされる県立高田高(陸前高田市)。大半の教職員が津波で家を流され、うち約20人が県立大船渡東高(大船渡市)の施設で避難生活を送りながら、5月の学校再開に向け準備を進めている。家族を失った教職員もいるが「授業と部活動ができる普通の学校生活を生徒たちに送らせたい」と力を合わせている。【佐藤敬一】

岩手最大被害の高田高

高田高の教職員約50人のうち津波で家を流されたのは37人。避難所生活を経て、3月22日から大船渡東高の施設を借り、約20人が寝泊まりしながら事務作業を行っている。単身赴任していた住宅が流された工藤良裕校長(54)もその1人だ。

3月11日は午前授業で、地震発生時は部活動中だった。「津波が来る」とラジオで聞いた工藤校長は、校内にいた生徒257人を高台にある第2グラウンドに避難させた。校舎は津波で3階まで浸水し、体育館も流されるなど壊滅的被害を受けた。

教職員は生徒の安否確認に駆け回った。約540人のうち16人が死亡、6人が行方不明。教諭1人の行方も分かっていない。

来月再開へ 準備進める

今年度は高田高から十数キロ離れた大船渡東高の校舎で授業を行う。5月2日の始業式に向け、「避難所」でもある大船渡東高の施設に臨時職員室を設置。校内にあったものはほとんど津波で流され、教科書や事務用品の手配や制服の調達、カリキュラムの作成など仕事は山積みだ。

共同生活では、家庭科の山口容子教諭(59)が中心となって献立を考え、分担して料理をして全員で食事を取る。男女に分かれてのプライバシーのない雑魚寝状態が続く。それでも佐々木明志教諭(47)は「気がどんどん合ってきた。教諭生活の中でもこれだけ授業をしていないのは初めて。早く授業もしたいし、部活動も指導したい」と話す。

大船渡東高の施設を借りての共同生活で昼食を食べる高田高の教職員ら=岩手県大船渡市で6日、矢頭智剛撮影

家族や友人を失った生徒も多く、心のケアも課題だ。工藤校長は「教諭には生徒と向き合う時間をしっかり確保させたい」と語る。その上で「自分たちが新しい高田の街をこれからつくるんだ、という思いで生徒たちはやってほしい」と思いを込めた。

ゆうちょ銀

ATM1000台動かず

余震からの復旧でミス

日本郵政グループの東日本の現金自動受払機(ATM)約1000台が同日朝から取引ができない状態になったと発表した。7日夜の東北地方での余震により停止したATMの復旧作業の際、ミスが生じたのが原因で、10日には通常通り稼働できるとしている。

停止したATMは、20都道府県に点在。全国のATMの4%弱に当たる。ゆうちょ銀行によると、余震による停電の影響で、8日朝から東北地方でATM約1100台が停止。復旧作業中にシステムに誤って9日朝にATMが止まるよう再設定。8日に取引できていたATMまで動かなくなったという。【乾達】

ゆうちょ銀行は9日、ATMの復旧作業を進め、稼働時間を入れる際、ミスが生じたとみられ、ゆうちょ銀行は原因を調べている。

乱気流 '11統一地方選

都知事選

街頭でそれぞれの主張

きょう投開票 選挙戦締めくくる

防災や原発に関心が高まる中で行われた東京都知事選は9日、各候補が街頭演説などを行い選挙戦を締めくくった。(4面参照)

主な候補者のうち、ワタミ創業者の渡辺美樹氏(51)は花見客でにぎわう上野公園内を練り歩き、その後、上野駅前で「安心して年をとれる、子供たちが夢を描ける温かい東京をつくりたい。私を雇ってください」とアピール。

一貫して防災服姿の原英夫氏(53)は新宿・歌舞伎町で「宮崎を変えたように、東京を変えてみせる。この歌舞伎町から日本を変えよう。あした歴史を変えよう」と訴え、選挙カーの近くにいた若者の輪に入っていった。

前参院議員の小池晃氏(50)=共産推薦=は新宿駅東口で「チェンジ」と繰り返した。「石原都政をチェンジする政策を訴え、チェンジする力を持っているのは私だけ一人」と力説。支持者から「小池コール」も起きた。【東京都知事選取材班】

都知事選候補者の演説に聴き入る大勢の有権者ら=東京都千代田区有楽町で9日午後4時17分、長谷川直亮撮影(一部画像を処理しています)

「原発電力減らして」7割

環境系シンクタンク調査

30年後 新エネルギー増 9割望む

原発に頼る電力が30年後に減ってほしいと希望している人が7割を超えたとの調査結果を、環境系のシンクタンク「幸せ経済社会研究所」(枝広淳子代表)がまとめた。東京電力福島第1原発事故後、20～70歳の男女を対象にインターネットで実施。居住地の人口比や年齢が現状に合うよう調整し1045人の回答を分析した。【元村有希子】

それによると、エネルギーに関する考えや意見が、事故をきっかけに変わった人は74%に達した。変化の内容を記述してもらったところ、最も多かったのは「原発の安全性への信頼が揺らいだ」の47%で、「節電・省エネ意識が高まった」と答えた人が24%いた。

電気事業連合会によると、08年の日本の電源構成は、原子力が24%を占める。その他は石炭が27%、天然ガスが26%、石油13%、水力7%、太陽光などの新エネルギーが3%となっている。

30年後の電源のあり方を聞くと、原子力は「ゼロ」22%▽「大きく減少」28%▽「やや減少」22%で、計72%が現状より減っていることを希望した。また、新エネルギーの増加を望む人は93%に上った。一方で、51%が「30年後の消費電力量が減っていることが望ましい」と答えた。

日本の電力量は、30年前と比べて倍増した。同研究所は「右肩上がりの電力需要を原発の増設で賄うという考え方から、節電や新エネルギーの活用など、事故を境に人々の考えに変化が生まれつつある」と分析する。

八百長問題

2力士の調査報告へ

蒼国来と星風 あす臨時理事会

大相撲の八百長問題で、日本相撲協会は9日、11日に東京・両国国技館で臨時理事会を開くことを決めた。特別調査委員会(座長=伊藤滋・早稲田大特命教授)から、疑惑が浮上していた幕内・蒼国来(27)と十両・星風(27)の調査結果の報告を受ける。協会は1日、関与が認定された23人を事実上、角界から追放する処分を下しており、11日の理事会で、さらに処分者が増える可能性がある。

調査委は9日、両国国技館で約4時間に及ぶ会合を開いた。蒼国来と星風は証拠が十分でないため1日の処分対象からは漏れたが、その後、改めて2人やその師匠から事情聴取。証拠を精査して関与の有無を議論した。2人は事実関係を否定しており、八百長関与が認定されれば、処分案は引退勧告となる。

調査委は、今後の調査方針も検討。既に処分された力士3人から任意提出を受けた携帯電話のデータ解析結果を待つ一方、裏付けが困難で処分対象に含まれなかったが、疑惑が残っている10人前後の力士の調査も継続していくことにした。

金子みすゞの詩 人気

震災後CM

「遊ぼう」っていうと 「遊ぼう」っていう――。東日本大震災以降、頻繁にCMで流れる山口県長門市出身の童謡詩人、金子みすゞ(1903～30)の詩が人気だ。

同市の金子みすゞ記念館では詩集などを買う人が普段の3倍になるほどで、通販サイトの文学・評論部門では3月下旬、金子の童謡集が週間1位に躍り出た。

同館は「この詩は『あなたと私がいて、こだましあう』という内容。詩に共感し被災地へ義援金を送った人も多いはず。みすゞの言葉の力」と支援へ更なる響き合いを願う。【川上敏文】

「遊ぼう」っていうと 「遊ぼう」っていう

◆親鸞七百五十回忌法要 浄土真宗本願寺派(京都市下京区、本山・西本願寺)の宗祖親鸞七百五十回忌法要が9日、始まった。親鸞の遺徳をしのぶ50年に1度の法要で、来年1月16日までに40万人の参拝者を見込む。

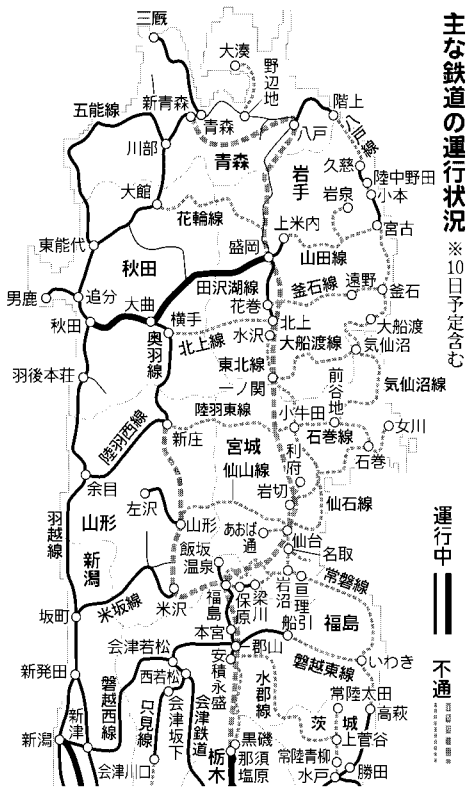
親鸞像を安置する御影堂(ごえいどう)では、参列した門徒らが見守る中、大谷光真門主ら僧侶約170人が読経した。

午前の法要には約3200人が出席。法要に先立ち、橋正信総長は「戦乱や飢饉(ききん)など厳しい時代を生きた宗祖をしのび、東日本大震災で被災された方々の悲しみに寄り添いたい」とあいさつした。

震災の影響で、4月は東北地方や東京などから69団体の参拝申し込みがあったが、15団体が延期を決めたという。

主な鉄道の運行状況

※10日予定含む



◆主な鉄道の運行状況◆

再開見通しなどは9日午後7時半現在。余震の影響で変更の可能性がある。

●新幹線
<東北新幹線>新青森―一ノ関、一ノ関―福島は7日の余震により点検中。福島―那須塩原は12日に再開予定。那須塩原―東京は運行
<山形新幹線>福島―新庄は11日に再開予定
<秋田新幹線>盛岡―秋田で運行

●JR在来線の再開見込み
＊大湊線、花輪線、北上線は11日に全線再開予定
<東北線>北上―水沢は11日、水沢―一ノ関は15日ごろ。一ノ関―仙台、岩切―利府は今月下旬。仙台―福島、黒磯―安積永盛は今月中旬
<山田線>上米内―宮古は13日ごろ
<釜石線>全線(花巻―釜石)が12日ごろ
<大船渡線>一ノ関―気仙沼は今月下旬
<陸羽東線>今月中旬
<石巻線>小牛田―前谷地は今月中旬
<奥羽線>福島―米沢、山形―新庄は11日
<仙山線>仙台―愛子、山寺―山形は今月中旬
<仙石線>あおば通―東塩釜は今月中旬
<常磐線>高萩―いわきが11日。亘理―岩沼は今月中旬。特急は上野―高萩で今月中旬
<磐越東線>船引―小野新町が13日、小野新町―いわきが15日
<只見線>会津川口―只見が12日
<水郡線>安積永盛―常陸青柳、常陸太田―上菅谷が11日、常陸青柳―水戸が15日ごろ

●その他
<三陸鉄道北リアス線>宮古―小本、陸中野田―久慈で運行
<仙台市地下鉄>29日に全面再開予定。富沢―台原は運行
<阿武隈急行>瀬上―保原、角田―槻木は今月中旬再開予定

◆国内線の運航状況◆

10日以降の当面の予定。便数は1日当たり(臨時便を含む)。羽田、伊丹発の便を中心に満席が多い。
<花巻空港>羽田便=3往復▽伊丹便=4往復(ともに日本航空)
<山形空港>新千歳便=日本航空2往復▽羽田便=日本航空5～6往復▽伊丹便=日本航空4～6往復、全日空2往復▽中部便=全日空1往復
<仙台空港>13日から旅客便の運航を再開予定。羽田便=全日空3往復、日本航空1往復▽伊丹便=日本航空2往復
<福島空港>羽田便=10日まで1往復▽新千歳便=2往復▽伊丹便=4往復(いずれも全日空)

◆主なバスの運行◆

<岩手県北バス>☎019・654・5814
盛岡―仙台、盛岡―郡山は東北道の通行止め区間を避けて運行する。
<岩手県交通>☎019・654・7755
釜石―仙台は運行を再開。12日から釜石―大船渡の路線バスを運行予定。
<ミヤコーバス>☎022・771・5310
長町―岩沼駅間の臨時バスが9日に運行開始。10日から長町駅―城下広場(白石市役所隣)、11日からは仙台駅と塩釜駅、利府駅、鎌田記念ホール(大崎市鹿島台)とを結ぶ臨時バスも運行。
<福島交通>☎024・531・2706(福島支社)
☎024・943・1651(郡山支社)
郡山―盛岡は余震後の運行を再開。小野―船引の臨時バスは、平日のみ14日まで延長して運行。

■公営住宅の被災者受け入れ■

★被災者向け公営住宅等情報センター
フリーダイヤル 0120・297・722 (9～18時)
被災者が入居可能な全国の公営住宅、UR賃貸住宅などの情報を紹介する。入居は原則無料。希望先の住宅を管理する自治体などに電話が転送される。有料の民間賃貸住宅も案内している。

◆近隣都道県の避難者受け入れ先◆

<北海道>道外被災県緊急支援対策本部
☎0120・113・926
<青森県>県生活再建・産業復興局☎017・734・9581
<岩手県>県内陸部の宿泊施設で受け入れ。
県政策地域部の専用窓口☎019・629・5216
<秋田県>県被災者受入支援チーム☎018・860・4504
<山形県>県避難者支援班
☎023・625・1605、1608、023・630・3100
<新潟県>県避難者対策班☎025・282・1747
<茨城県>県避難対策班☎029・301・6735
<栃木県>相談窓口=道の駅「那須高原友愛の森」
☎0287・78・3033
<群馬県>県避難者受入れ支援センター
☎0270・26・9420～1
<東京都>都総合防災部☎03・5320・4007
<神奈川県>県災害支援担当☎045・210・5970
<埼玉県>県避難者総合相談センター
☎048・601・2220
<千葉県>県の避難者センター☎043・223・3411
<山梨県>県支援対策室☎055・223・1519
<長野県>県の受入相談☎026・235・7407